研究課題別中間評価結果

１．研究課題名：　潜在アンビエント・サーフェス情報の解読と活用による知的情報処理システムの構築

２．研究代表者：　渡邊　克巳　（早稲田大学基幹理工学部　教授）

３．中間評価結果

野球、剣道、バスケットボールなど多くのスポーツプレイを対象にして、選手個人のパフォーマンスを左右する潜在的な情報（潜在アンビエント・サーフェス情報）である生体情報や精神状態を実際にプレイしながらでもオンラインでの見える化、聞こえる化や、実験室環境ではあるが、極度の集中と快状態を引き起こすフロー状態の検出などが可能になり、研究は順調に進んでいる。この成果は心理学、認知科学だけでなく、スポーツ関連の論文誌、国際会議など多数発表され、学術的にレベルも高い。これまでは、主に個人のパフォーマンスの計測とその解読に重点をおいていたが、今後は、選手・プレイヤー同士、監督・コーチ、観客・観衆について、他者が個人のパフォーマンスに及ぼす影響に関する見える化と解読の研究へと発展することを期待する。少なくとも二者間以上の潜在アンビエント・サーフェス情報のインタラクションと最高のパフォーマンスを引き出せる（または引き出せない）状況との関係を明らかにする研究に発展することを期待したい。研究代表者のリーダシップの下で、チームの専門分野（心理学、認知科学）以外のスポーツ、エンターテインメント等への応用分野に拡がるネットワーク形成にも期待したい。